



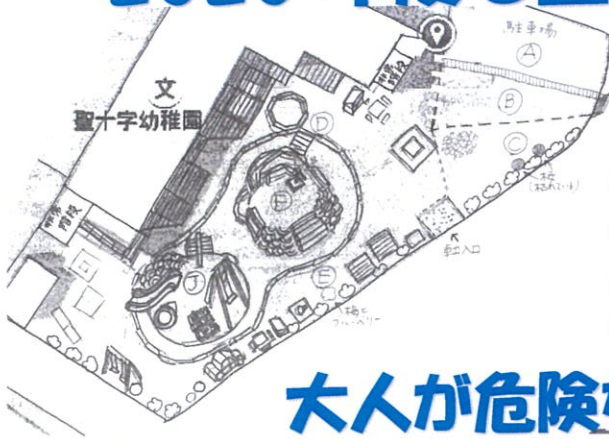
せいじゅうじ ようちえん

えんていつうしん 1

7月14日



2020 年度も園庭を大事に育てましょう！



聖十字の園庭は、子どもの遊び環境研究の専門家と1級建築士の先生に何年も研修を受けながら、保護者の皆さんと作ってきました。毎日、手入れをしてハザード（危険）を排除しながら、成長に必要な挑戦できるリスクを組み込んでいます。今年も園庭・園内両方をコツコツと改善していきます。コロナが落ち付き、ワークショップを開けるようになりました、またご協力をよろしくお願い致します！

大人が危険な遊具を見抜く目を！

千歳市のキャンプ場で、2歳の女の子が、遊具の2,5mの高さの梯子から落下し、頭蓋骨骨折の大けがをしたニュースが流れました。保護者の皆さんの中には、「聖十字の遊具も背が高いけど大丈夫だろうか？」「幼稚園の遊具は安全に作ってあるけど、どこでも登れる筋力がついているから、一般の公園に行った時が心配」など、さまざまな不安がよぎったのではないのでしょうか。ここでは大人みんなで気を付けていけるよう、遊具のどんなところが危険なのかについてご説明します。

よくある遊具

子どもの小さい足をさしこんで登ってしまう柵の柱まサイズかどうかチェックを。



子どもの心理柵はのぼりたのびたい柵にはのり出したとき頭の重い幼児はおちてしまう。

はじは1オ足でも登ってしまいます。うちの子も歯を折りました。

かんたんに登れる足がかりがないかチェック。

残念ながら、今の公園には危険な遊具がいっぱいです。危険を見抜いて子どもたちの大事な命を守っていきましょうね。

聖十字の工夫

のりにえたくなる柵はない。子どもは柵がないともっとの真鍮を生きして落ちない。

足がかりを作らない板の見取り方

2m以内

土は黒土と腐葉土を耕し

いつもふかふかに。それでも必ず見守って。

高いところは必ず2m以内下に木の柱は土を深く掘り埋めて固めただけでコンクリートは使わない



1.5m高さのステージにとびついて手が届く子、足がかりのない柱をよじのぼれるようになった子が登れない。この判断力、筋力が身を守ってくれます。

(文責・菊地)